

正十年一月限り普選運動へ素ヨリ議會政策ヲ否認スル態度ニ出テ所謂直接行動時代ヲ出現シタ。

四 直接行動時代

普選運動ニ狂奔シタ各労働團體ハ普選運動ハ何等ノ效果カナカツタノニ鑑ミ労働者ハ直接行動ニ因ルノ外ナシトノ感想ヲ抱カシメ各労働團體ハイツレモ直接行動的團體ヲ組織シタガ其代表的ノモノハ日本労働總同盟(大正九年友愛會ヲ改稱ス)ノ「野武士組」「茶袋組」「反逆團」日本労働組合聯合(現在總聯合)ノ「熱直團」「骸骨團」デアツテ之等ノ團體ハ労働争議其他ノ場合ニ於テ事毎ニ直接行動ヲ顯散シ實行シタ。
尙コノ時代ニ於テ特記スベキ事項ハ全國各労働團體間ニ離散シタ總聯合運動ニシテ大正十一年九月三十日天王寺公會堂ニ於テ「日本労働組合總聯合」ノ名稱ヲ用ヒ其ノ發會式ヲ舉行スル連ビニ至ツタガソノ席上ニ於テ日本労働總同盟系團體ハ共產主義者荒畑勝

三等ノ指導ノ下ニ中央集權主義ヲ噴へ反總同盟系團體ハ無政府主義者大杉榮ノ指導ヲ受ケ自由聯合主義ヲ固執シ兩派亂闘ヲ演ジ遂ニ集會ノ解散ヲ命ゼラレ決裂ニ終ツタ。
斯クテ日本ニ於ケル労働運動ハ一方ハ共產主義他方ハ無政府主義ノ二ニ分レ從來ハツキリセナカツタ主義系統ヲ鮮明ニシタ。

四 方向轉換時代

直接行動顯散ニ依リ日本ニ於ケル労働運動ハ極メテ散漫ナ空氣ヲ連リツ、アツタガ一般組合員ノ智識向上ハ無謀ナ運動ヲ以テシテハ到底現在ノ社會組織ニ一指ヲ染メルコトガ出來ナイトノ感ヲ懷カシメタノミナラズ大正十二年山本内閣成立以來普選實施モ遠キニアラズトノ趨勢ニ阿ツタ等ノ理由ニ依リ有力労働團體間ニハ妄想的急進運動ヲ避ケ現實的漸進主義ニ操ラントスル空氣ニ變ツタ。

日本労働總同盟ハ大正十三年二月、全國大會席上ニ於テ「生硬ト